

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1294600018		
法人名	宝田企画 株式会社		
事業所名	グループホーム 宝の里		
所在地	千葉県香取郡神崎町新365		
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宝の里は、緑に囲まれ、四季折々の美しい環境の中にあります。木造平屋建てで、1ユニットのホームです。リビングの天井が高く、太陽の光が差し込み、ウッドデッキも広いので外気浴も楽しめ、入居者様は自由に過ごされています。職員は理念に基づき、入居者様の自主性や価値観を重視し、心身の取り巻く環境等を踏まえ、一人ひとりに適した生活のお手伝い出来るように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月にオープンした「グループホーム宝の里」は、神崎町初の「認知症対応型共同生活介護施設」である。小さい町のグループホームではあるが、自然との暮らしや心豊かな毎日が過ごせるような支援を目指していると共に、町の紹介やイベントへの参加促進を行う等、町と共に地域の課題解決のために連携を深めている施設である。地域との交流・運営推進会議・研修等は行われてはいるが、内容等については不十分と考え、今後は施設として計画に基づいた実践に取り組み、地域密着サービス事業所として地域で必要とされる施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に説明をし、掲示もしている。全職員は理念を目標とし、日々のサービスの提供に取り組んでいる。	「1日1笑」を目標としたグループホーム独自の理念を掲げ、パンフレットや運営規定に明文化していると共に、施設内に掲示し、職員や外部の人へ周知している。会議等で全職員への理念浸透を図り、理念に基づいたサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の見学があったり、散歩時に挨拶を交わしたりと、少しずつ交流が増えてきている。	散歩や買い物等の際に、近隣住民とは挨拶をする関係が構築されている。老人クラブとの交流はあるが、今後は地域交流を施設運営の重要課題とし、運営推進会議を活用する等、地域交流の促進を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学・入居相談に来所されたご家族・面会に来られた方に、支援方法やアドバイス等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、改善点等を踏まえ家族様と話し合いを行い、より良いサービスの提供を目指している。	町役場職員・地域包括センター職員・地域住民・入居者・家族等を構成員として、開設後初の運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告・意見交換等を行い、地域の理解促進に努めると共に、挙げた意見・要望等はサービスの質の向上に活かしている。また、防災についても検討しており、地域との協力体制に向け取り組んでいる。	今後、定期的に運営推進会議を開催すると共に、会議を通じて施設の理解促進・地域との交流・行政との情報交換等を行い、地域ニーズや施設の課題の把握に繋げて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町より職員の参加があり、情報交換や相談等が行われている。	町に対しては業務全般の報告や相談等随時行っており、行政との連携を図っている。運営推進会議時に行政関係者から意見・要望・情報等を確認しており、共に地域問題解決に向け取り組む体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていない。ミーティング等で話し合いを行い、共通の認識を持つ努力をしている。	身体拘束排除に向けて施設方針やマニュアルを整備していると共に、ミーティングの機会を活用し研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。日中は玄関のカギを施錠せず、見守り・声掛けにて安全確保に努め、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないような環境作りを心掛け、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い方については、話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	良く話し合い、スムーズに解約等が行えるように支援している。また、丁寧な説明を心掛け、不安を解消できるような対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や電話連絡時に直接意見や要望を聞き、運営に反映させている。	苦情相談窓口の設置をすると共に、家族の面会時や電話連絡時に直接意見や要望を確認している。また、運営推進会議を活用する等、様々な方法で意見・要望の収集に努めている。挙げた意見・要望は、会議等で全職員に周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は日常の業務内や話し合い等で把握している。	ミーティング・朝礼等を通じて、職員からの意見・提案を確認していると共に、管理者が日々の業務の中で個別に話をする機会を設け、職員の思い・意見・要望を確認するよう努めている。また、ミーティングノートを活用し、全職員の意向や情報の把握に努めている。	

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員定着に向け、改善して行きたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促して行きたいが、個人の意欲に任せてしまっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会の案内があった際には、呼びかけを行っていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事や、困っている事を聞きながら、本人が安心して生活が出来る方法を探し出せるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から様々な意見を聞きながら、本人への支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診や他のサービスが必要と判断した場合には、スムーズに利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を大切に、その方に合った支援を行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時での交流・状況報告・相談等を通し、支え続けることができるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の基、希望の場所への外出等を支援している。	知人や友人の来訪等の支援を行っていると共に、家族との外出・外泊は自由となっており、馴染みの人との関係継続に取り組んでいる。季節毎に様々な外出を計画しており、馴染みの場所への外出支援を行っている。また、馴染みの理美容院の利用やお墓参り等、入居者一人ひとりの生活習慣を尊重した支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握し、孤立や対立がないように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了された方はいないが、必要時にはサービスの情報提供を行う事が出来るような体制が整備されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族様より、日常生活についての希望を伺い、希望に添えるように支援している。	契約時に本人・家族から生活歴・意向・身体状況等を確認し、記録している。必要に応じて医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日々の生活の中から意向を汲み取り、記録し、会議・朝礼等で意見・情報交換をしながら、本人本位の検討や情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族様より伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方等を毎日記録し、本人の状態を確認しながら現状の総合的な把握に努めている。		

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重しながら、周りの意見を取り入れながら、ケアプランを作成している。	本人・家族の意向や記録をもとに、会議にて職員や関係者と意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の目標達成状況の確認や評価を行うと共に、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状態を毎日記録し、全職員が確認し、ケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・かかりつけ医・福祉事業所等と連携を図り、その人らしく生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係が途切れないように配慮している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、必要に応じて職員による受診の付添い支援が行われている。協力病院とは医療全般における相談・家族への説明・緊急時の対応等、協力体制が構築されている。その他にも、週1回、訪問看護が実施されており、適切な健康管理・服薬管理・医療についての相談・助言が行われ、適切な医療支援の確保がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し、訪問看護師に伝え、相談や指示を仰いでいる。必要に応じて受診を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常にご家族との連絡を取る事や面会時に状況報告を行う等、関係作りを努めている		

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の状況報告時等において、ご家族様と密にし話し合いをしながら、終末期に向けた支援を行っている。	重度化・終末期においては契約時に施設としての対応を家族に説明し、同意を得ている。必要に応じて家族と話し合いを行い、意向の把握に努めると共に、終末期・重度化した場合には、協力病院と連携を図りながら意向に沿った支援が出来るように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の方法を、常に目につく所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、消防避難訓練を実施している。	非常災害時のマニュアルの整備や避難経路を確保すると共に、スプリンクラーや消火器等を設置し、非常災害時に備えている。消防署立会いの下、年2回、消防避難訓練を行っている。今年度は災害に備え、設備や備蓄品の再確認・点検を行い、万全な対策を講じている。また、運営推進会議の議題にも取り上げ、災害時における地域住民との具体的な協力体制の整備に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛け等を行い、プライバシーに配慮した対応に努めている。	プライバシー保護や接遇に関するマニュアルが整備されていると共に、会議では尊厳厳守・接遇等の指導が行われている。全職員は日々の生活において、全職員が入居者一人ひとりに合わせた丁寧な言葉使いや尊厳に配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話を聞きながら、ご本人の気持ちを汲み取る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況に合わせて、無理強いないせず、出来る事を探しながら、充実した日を過ごせる様に支援している。		

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ、衣類を整理し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの低下と共に、出来なくなっているが、強制ではなく、手伝って頂く様をお願いしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・調理・片付け等を職員と共同で行っている。献立作成や食材購入は、委託業者を利用しており、厳選された食材と栄養バランスに配慮された食事提供がされている共に、食事担当の職員が調理法の工夫を行い、身体状況に合せた食事提供がなされている。また、誕生日会・クリスマス会・おすそ分けの食材・地域住民の手作り食品の活用等、食を通じた様々な取り組みが入居者の生活活性化に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表・食事チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、適切な支援を行っている。	排泄チェックリストを活用して、個々の排泄パターンを把握している。また、プライバシーに配慮した声掛けや誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。夜間においてはトイレ誘導やポータブルトイレを活用する等、適切な排泄支援が行われている。また、食事内容や水分量に気を配り、必要に応じて医師・看護師と相談しながら適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食分量や水分補給に心掛けている。		

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調・その日の状況・希望等に応じて対応している。	入浴においては毎日実施されており、希望に応じて曜日・回数・時間等、柔軟に対応している。浴室には転倒防止マットや手すり等が設置されており、入居者の安全が確保されている。入浴拒否においては、一人ひとりに合った声掛けや日時の変更にて無理強いせず、入居者の心情に配慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容の理解を深め、必要に応じて主治医と相談しながら見直しを実施している。職員2名で確認を行い、服薬して頂き、間違いが無いよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の出来る事や趣味等を把握し、気分転換を支援できる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望・天候・体調等に応じて散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。ご家族様との外出・外泊も可能となっている。	入居者の希望・体調・天候に応じて、散歩や買い物等の日常的な外出支援を行っている。入居者の習慣・希望・身体状況・季節等を考慮しながら外出の機会を設けていると共に、時には家族を交えたり、ウッドデッキや広い敷地を活用しての散歩等、外出が楽しめるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、本人・家族様の意向を伺い、その状況に応じて支援している。		

【千葉県】グループホーム宝の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら、必要に応じて音の演出や映像を活用する等、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	施設は平屋の造りとなっており、全館バリアフリーで十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮されている。共有スペースにはソファやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるような空間となっている。リビングにはウッドデッキが設置されており、気軽に外の風を楽しむ事ができる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ウッドデッキ・居室等、思い思いに自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物や愛着のある物を持参して頂き、居心地良く生活できる様に配慮している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるように配慮されている。ベットや畳等、本人の生活暦や好みのスタイルに合せた居室作りがなされている。全居室にエアコン・ナースコールが設置され、快適で安全面に配慮された造りとなっている。たっぷり収納のクローゼットや鍵が設置されており、入居者のプライバシーの確保もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっている。廊下・トイレ・浴室等に手すりを設置している。		